

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度 宮城県意見交換会(第0.5回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2021年8月23日

1. 今年度の協議会の方向性
2. 意見交換会とは
3. 過年度までの振り返り
4. 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案
(参考) 地域の課題一覧
5. 初回ご挨拶における各団体からのご意見
6. 課題に挑戦している企業・団体候補を中心とした検討の進め方
(参考) デジタルを活用した観光振興の取組イメージ
(参考) 空き家対策の取組イメージ
7. 課題に挑戦している企業・団体候補案

● 1. 今年度の協議会の方向性

復興庁関連事業と連動し、過年度からの事例の発掘・共有を継続実施しつつ、今年度は被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する方向性です。

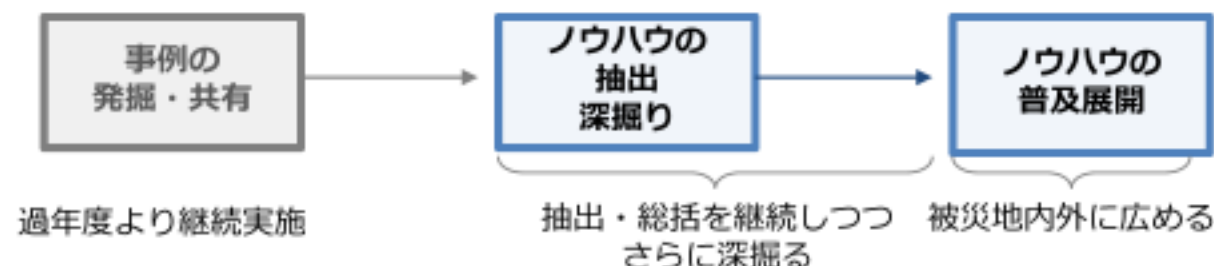
関連する復興庁の本年度事業概要（『令和3年度予算概算決定概要』（令和2年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて、優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携や専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

本年度の協議会の方向性

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
（今年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信していきたい）



● 2. 意見交換会とは

協議会では地域課題の解決に向けた多様な主体による協議・協働のための意見交換会・実践の場を開催します。意見交換会では、活動状況の共有及び解決すべき地域課題の設定と解決に向け協議し、実践の場では、意見交換会の議論の中で挙げた、地域課題解決に向けた取組（解決策）を試行します。

※なお、本年度は実践の場において関連事業（復興・創生の星顕彰）の表彰式も一体的に実施します。



	△ 意見交換会の概要	△ 実践の場の概要
議題・内容	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の共有 解決すべき地域課題の特定と解決に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会の議論の中で挙げた、地域課題解決に向けた取組（解決策）の試行 関連事業の表彰式
開催時期（目安）	第1回：8～9月 第2回：11～12月 第3回：1月～2月	12月～1月
時間	2時間	2時間～3時間程度 （関連事業の表彰式を除く）
場所	各県復興局の会議室	各県内の会場 （内容次第で規模等を勘案し選定）
出席者	副代表団体、オブザーバー、復興庁、 （必要に応じ）課題に関連する企業・団体	副代表団体、オブザーバー、復興庁、 （必要に応じ）課題に関連する企業・団体

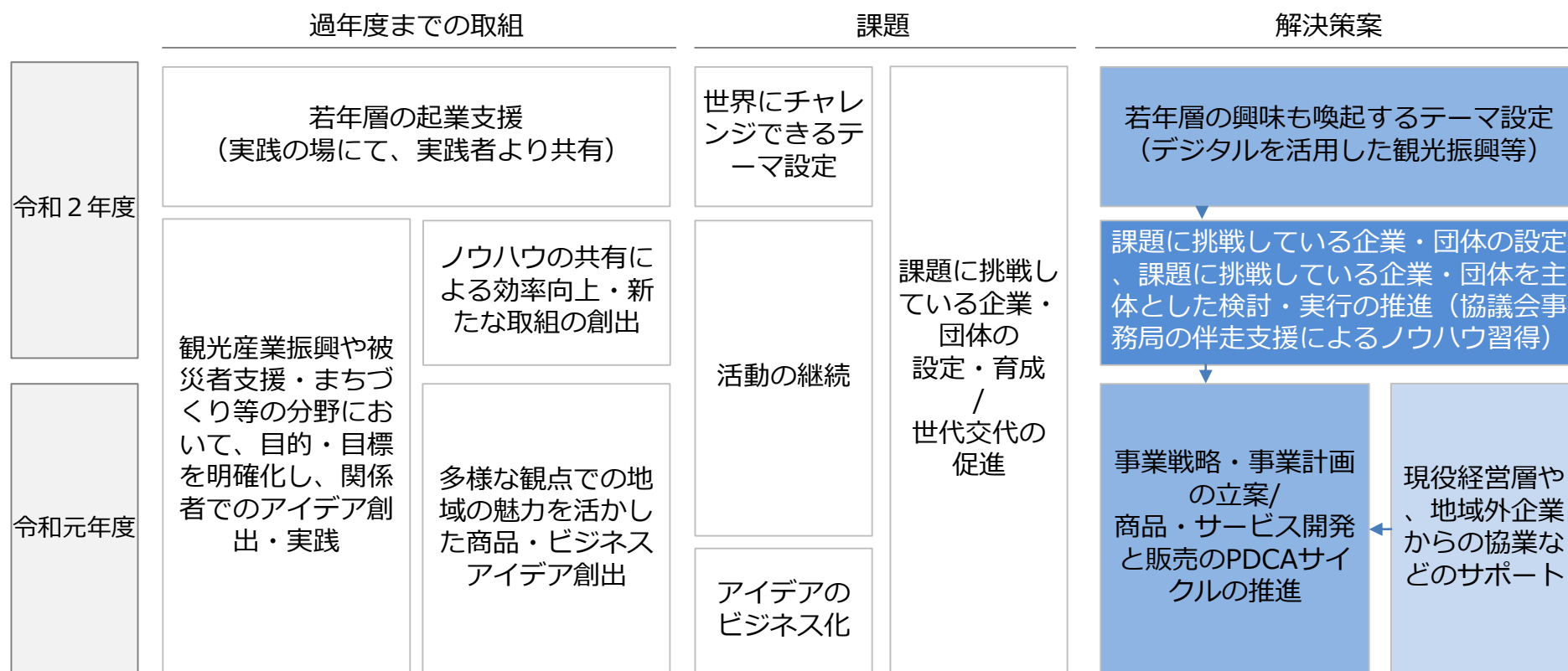
● 3. 過年度までの振り返り

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
テーマ	地域コミュニティづくり、ソーシャルセクターのあり方	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	年度ごとの成果
実践の場	<p>連携型交流会 in 宮城「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」（仙台市）</p> <p>ソーシャルセクター3団体による「新しい東北」創出に向けたビジネスモデルやサービス等をピッチ形式で議論</p>	<p>「南三陸をつなげる30人」（南三陸町）</p> <p>南三陸町内外の約30人が集まりフューチャーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討</p>	<p>「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市）</p> <p>東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となって観光まちづくりを行う枠組みを構築）</p>	<p>「みやぎ復興官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」</p> <p>東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討</p>	<p>年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信</p> <p>課題</p> <p>復興・地域活性化に向け創出したアイデアの実現や取組の継続のための仕組みづくり</p>

● 4. 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案

過年度までの取組で、活動を牽引する課題に挑戦している企業・団体の設定・育成、そのための世界にチャレンジできるテーマ設定、アイデアのビジネス化、活動の継続が課題となっています。デジタル活用による観光振興等をテーマに、ビジネス化を検討・推進する課題に挑戦している企業・団体を設定し、協議会による伴走支援を通じ、活動の定着・ノウハウ化に取り組むことをご提案します。



● (参考) 地域の課題一覧

課題分類	取組例		
都市基盤整備	地区整備・再開発 道路・交通対策	公共施設整備 都市景観整備	住宅対策 冠水対策
福祉・保険	保健衛生 高齢者福祉	障がい者福祉 生活福祉	
子育て	待機児童解消 医療・予防接種	発達支援 児童虐待防止	母子支援
教育	施設整備 中高一貫教育	学力向上 要支援対策	放課後対策 不登校対策
防災・防犯	防災対策 防犯対策	安全対策	
地域活性化・ 文化振興	人口減少対策 産業振興	雇用対策 観光振興	生涯学習 文化振興
環境対策	地球温暖化対策 エネルギー対策	自然環境保全 廃棄物対策	

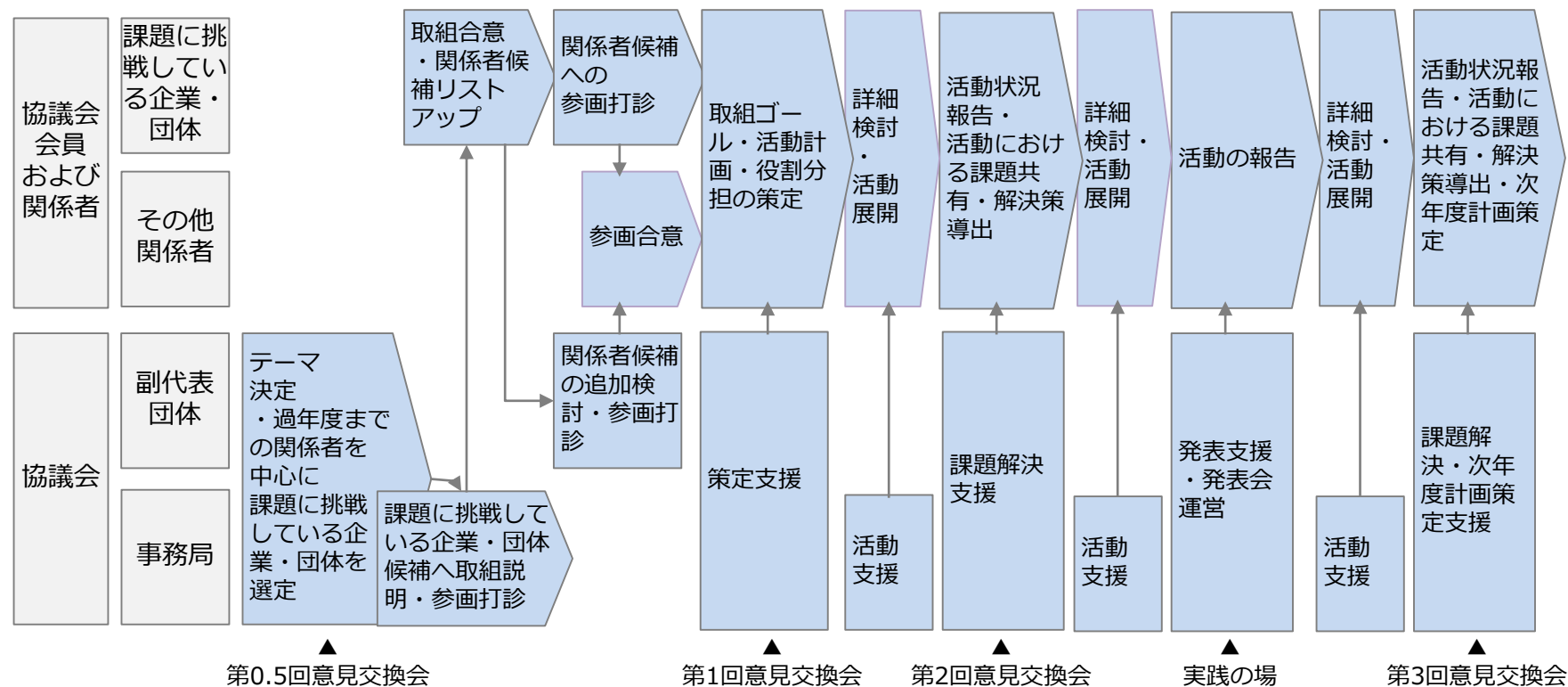
● 5. 初回ご挨拶における各団体からの意見整理

普及・展開を見越して、全国共通の課題となる人口減少や獣害、空き家活用のような切り口をテーマ設定に盛り込む点、継続性を意識した取組の考慮や新たな課題を顕在化させているコロナ影響や既存事業、過年度までの関係も考慮した課題に挑戦している企業・団体候補の設定という意見をいただきました。

分類	意見(敬称略)
テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 起業家支援や起業家の卵の支援は銀行としても取り組んでいるため、親和性のあるテーマであると感じている。 2. 震災のことは考えない日はないが、被災地課題という切り口のみならず、日本全国での課題である人口減少を対象に取り組むことを考えることが必要ではないか。 3. 35市町村と地方創生に向けた連携協定を締結し、各地の地域課題を銀行だけでなく、他の民間企業とも連携しながら解決に向け支援している。その筋から探っていくのも一つの案である。例えば、三陸を中心に発生している鹿の食害に取り組んでいる企業も存在するが、ビジネスとして全体像を描き切るところまでできていないようなところもあり、テーマの一つになるのではないかと考える。 4. 取組の継続性はこれまでも議論になっていたが、今年度はその点が意識されたテーマ設定であると感じた。 5. 単年度では成果を出すのが難しいと感じるが、継続的なフォローなどは協議会で実施できているか。
実践の場(内容)	－
課題に挑戦している企業・団体	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に挑戦している企業・団体を設定する際に、コロナで新たに顕在化した課題もあり、コロナ影響も加味した検討が必要であると考えます。 2. 銀行の日頃の業務では取り組めていない活動を候補に入れていきたい。例えばNPOに対する融資は、お互いに壁を感じる部分があるが、そういった部分を本事業で扱っていくのも一つの案ではないか。 3. 候補として、「巻組」という団体があり、代表は女性起業家としても注目されている。空き家活用という事業は日本全国で今後拡大する課題への解決策でもあり、候補になり得ると考える。 4. 活動メリットを感じてもらいやすいことから、過年度までの関係者は候補になり得る。
進め方	－

● 6. 課題に挑戦している企業・団体候補を中心とした検討の進め方

今年度の取組テーマ・課題に挑戦している企業・団体候補を協議会内部で検討し、課題に挑戦している企業・団体候補へ参画を打診します。課題に挑戦している企業・団体決定後は、自立のかつ継続的な活動の実現に向け、課題に挑戦している企業・団体が主体となって検討・活動展開を行い、事務局が活動を支援します。



課題に挑戦している企業・団体が享受できるメリット

- ・ 自団体だけのネットワークでは集め切れないメンバーを集めることができる
- ・ 計画策定・推進がやりきれない部分について事務局のサポートを受けることができる
- ・ 実施する中で発生する課題の解決について協議会副代表団体から意見交換会でサポートを受けることができる
- ・ 計画のPDCAを通じたブラッシュアップについて協議会副代表団体から意見交換会でサポートを受けることができる

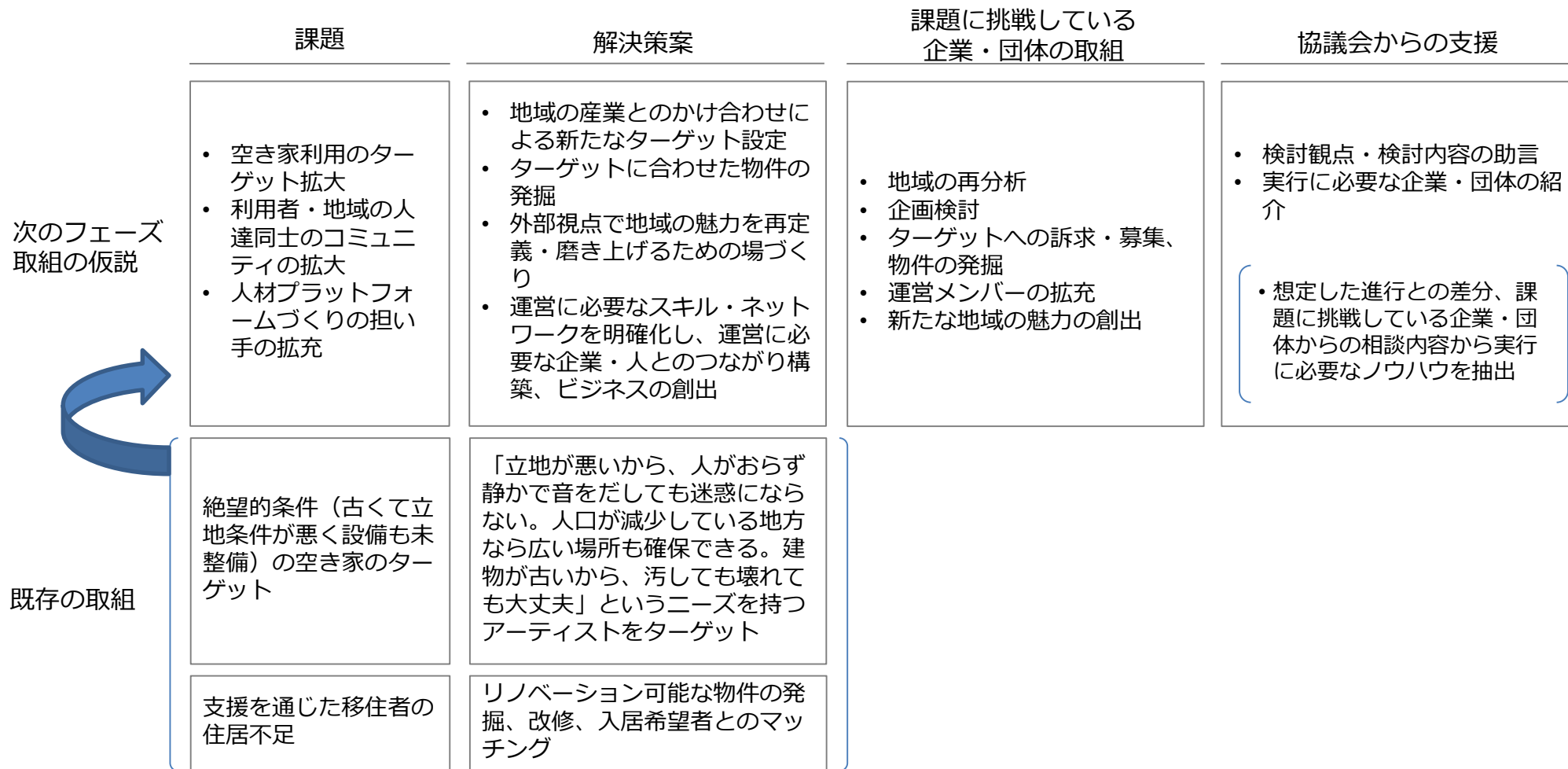
●（参考）デジタルを活用した観光振興の取組イメージ

デジタルを活用した観光振興では、産業の担い手不足への対応としてデジタルを活用した①効率化・高度化と②新しい商品・サービスの創出の方向があり、課題に挑戦している企業・団体の抱える課題によって、いずれかもしくは双方を対象に取り組む。

	課題	解決策案	課題に挑戦している 企業・団体の取組	協議会からの支援
① 効率化・ 高度化	観光客に対する情報が属人的で、旅行の中で一貫して満足度の高いサービス提供が難しい（旅館の女将のみが分かっている、女将不在時や他の施設では満足できない）	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊申込情報をキーに、顧客との対応履歴をシステムで管理し、顧客対応前に確認できるようにすることで、分業と対応品質の維持を実現する 顧客からの申し出で旅行中に立ち寄る施設への情報共有できるようにし、ツアー中の満足度を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 企画検討 顧客情報の取扱い整理・顧客への許諾取得内容検討 参画団体の募集 システム検討・構築 実行 収集データの分析 分析結果に基づく改善策の立案・実行 	<ul style="list-style-type: none"> 検討観点・検討内容の助言 実行に必要な企業・団体の紹介 <p>・想定した進行との差分、課題に挑戦している企業・団体からの相談内容から実行に必要なノウハウを抽出</p>
② 新しい商品・ サービスの創出	コロナ禍での観光客減少への対応、今後の不確実性への対応を可能とする新しい商品・サービスの創出が必要	<ul style="list-style-type: none"> 地域産品に生産者とのオンライン交流会をセットで販売し、オススメの食べ方のレクチャーを受けられる 地域産品をセットで販売し、オンライン観光ツアーの途中で地域の味を楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 企画検討 対象の商品とオンラインレクチャー・オンライン観光ツアーの内容検討 参画団体の募集 紹介動画等の作成 商品パッケージの作成 販売促進 参加者アンケートの収集・分析 分析結果に基づく改善策の立案・実行 	<ul style="list-style-type: none"> 検討観点・検討内容の助言 実行に必要な企業・団体の紹介 <p>・想定した進行との差分、課題に挑戦している企業・団体からの相談内容から実行に必要なノウハウを抽出</p>

●（参考）空き家対策の取組イメージ

（巻組の）既存取組は一定の完成度に達し、次のフェーズへ移行しているものと想定。更なる利用者拡大のため、つながりを軸とした成果導出の仕組み、運営体制の拡充をテーマとした取組となると思料。



● 7. 課題に挑戦している企業・団体候補案

今年度のテーマ案を踏まえ、課題に挑戦している企業・団体には、事業・取組に主体的に携わり、地域課題の解決策を模索している企業・団体が候補となると思料。

課題に挑戦している企業・団体の要件

必須の要件

- 地域の課題に関連する事業・取組に主体的に携わっている
- 事業・取組の中で課題を感じており、解決策を模索している

付加的な要件

- （過年度の議論を踏まえ）観光振興等に関わる事業・取組を展開している
- デジタル活用に関する課題・関心がある
- 他企業・団体との連携を模索している
- 新商品・新サービス開発に課題を感じている